

R1 職員による学校自己評価(中間評価)

25 長野県屋代高等学校・附属中学校

職員による中間評価 A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分 回答総数 61

評価項目	評価の観点	前期の取り組みの成果	後期への課題	職員評価				指標
				A	B	C	D	
1	学校づくり	新しい学校づくりの完成に向け、普通科教育・理数科教育・中高一貫教育およびIV期SSHのプログラムについて更に研究を深め実践することができたか。	課題探究、課題研究においても、他校の生徒を招待して合同でポスターセッションを行い、普及活動に努めることができた。また、多くの参観者からアドバイスを頂く機会をもうけたことで、探究活動がより深まったものとなった。	探究活動の成果発表に向けて、計画的に進めること。	27	31	3	84.8
		高3コース選択・講座編成等について、はやめに各教科と検討を進めた。(高2)	生徒の要望をできる限り活かせるよう、作業を進める。(高2)					
2	キャリア教育体制を検討し発展させることができたか。	例年同様に、朝、放課後、土曜補習を行い、夏期休業中には通常補習と2次対策補習を行なった。学習合宿は2泊3日で実施した。(高3)		補習への参加や1棟での自習等を通じ、集団として受験に取り組んでいくよう指導する。(高3)	24	35	2	84.0
		「大学見学会」「文理別進路講演会」「東北サイエンス交流会」「屋代ミニ大学」等の企画を計画実行した。社会で活躍する本校OBの講演を聴き、進路に対する意識を深めることができた。(高1,2)	文理選択と2・3年次への繋ぎの検討。(高1)さらに生徒の進路意識を高める日常での取り組みの工夫が必要である。(高2)					
		夏休みのジョブシャドウイング、6月と9月のキャリア講演会を実施することで進路を考える機会を設けることができた。また、その経験が学習への意欲を高める結果につながった。(高1)	文理選択などの指導を通じて、2年次以降の学習へスムーズにつながるよう指導・支援することが大切である。(高1)					
		学年行事「能登臨海実習」「福祉体験学習」「イングリッシュキャンプ」「集中学習会(大学見学・集中学習会)」を実施した。また、生徒(希望者)、保護者向けの進路研修会を実施した。(中学)	行事の育ちを日常生活につなげていく。					
	進路情報を生徒・保護者に向け有効に発信できたか。	節目節目で学年集会を開いてキャリア担当係より話をし、意識の向上に努めた。(高3)		更に情報を充実させ、三者での情報の共有・理解を深め、自分の適性を考えるということを意識させていきたい。(全学年)	33	26	2	87.7
		学年通信・学級PTA・保護者説明会・学年集会等を通じて学校行事、進路・学習に関わる情報の提供ができた。(全学年)						
	全教科にわたる総合的学力を養成し、国公立大学を中心に進路実現の可能性を拡げることができたか。	科目数を絞らないことが本校生にとって有利であることを強調し目標を下げないように指導している。(高3)		模試の結果をふまえつつ、あきらめずに最後まで頑張らせたい。(高3)	27	30	4	84.4
		学年会での各教科の取り組みの共有、生徒の学力状況・進路目標の共有と対策を検討した。(高2)		高い志望を持たせながら学力の向上を図りたい。(高2)				
		進路講演会を実施して、大学選択や職業選択の視野を広げるように努めた。また、文理選択説明会等でも話の中で、大学や入試について知識を深め、幅広く学習することの意義を強調した。(高1)		各成績層に応じた取り組みの重視。および、2年次以降の進路指導を通じて、全教科にわたる総合的学力の養成をめざすよう指導を行いたい。(高1)				
		考査前に質問講座や学習会の場を設けた。(中学)						
学びの基礎診断等により生徒の学力や生活実態などの情報を把握し、それを集団と個々に応じた指導に活かすことができたか。	各考査の成績や春秋のスタディーサポート等を利用して学力や学習状況の把握を行い、個別面談等の指導に生かした。(高1,2,3)		情報交換を緊密に行い、生徒のメンタルな部分も支援しつつ、学力の伸長を図っていきたい。(高3)修学旅行明け、11月以降スムーズに受験体制へ移行できるようにしたい。(高2)指導・支援を継続していく。(高1)	30	24	7	84.4	
	学習成績や面談等を通じて生徒の実態を把握し、学年全体としても改善すべき点を確認、検討した。(高1)		生徒の学習実態を継続的に把握し、学年や各教科で情報を共有したい。(高1)					
	考査後に補習を設け学力定着を行うとともに、課題の課し方について検討し、個別の相談や指導を行った。(中学)		よりよい課題の課し方について検討していく。					

評価項目	評価の観点	前期の取り組みの成果	後期への課題	職員評価				指標
				A	B	C	D	
3	カリキュラム 探究的な学びに取り組む姿勢を育てる魅力ある授業が提供できるよう教科指導の研鑽に努めることができたか。	教員間の授業公開を行い、フィードバックシートで授業者への還元を行った。新たな試みとして各教科で共通参観授業を決め、教科会等で授業研究を行った。	引き続き授業公開を実施するとともに、授業アンケートを実施して授業の質向上に役立てていく。	22	31	7		81.3
4	生徒指導 通学中の交通事故をなくす努力ができたか。	新入生に向けての自動車学校での安全教育、全校生徒に向けての警察からの安全講話を行った。残念ながら自転車事故は4月当初より発生し、特にスピードを出しすぎて起こる事故が目立った。	自転車運転についてはクラスへの掲示や呼びかけ等で道路交通法の遵守とゆとりをもった情動を心がけさせたい。また自転車運転に関わる保険加入の義務化について家庭への周知とともに加入の呼びかけを行う。	27	33	1		85.7
	いじめや暴力のない安全な学校生活を送るための啓発活動ができたか。	SNSの使用等、警察からの安全講話を行った。またトラブルになりやすい事象については、新入生の授業内で対策ビデオを鑑賞した。	いじめアンケートの実施や日常より生徒の様子を観察し、未然に防げるような体制作りを強化したい。					
	人権教育 すべての教育活動が人権教育を基盤として行われ、いじめや体罰のない安心安全な学校づくりにつながったか。	8月28日に人権教育職員研修会を持ち、長野市立川田小学校特別支援コーディネーター小嶋悠紀先生より「発達障がいを持った生徒への教員の関わり方」を中心に講演をいただいた。	10月24日全校生徒に本校スクールカウンセラー吉江志濃先生より「心のモヤモヤの片付け方」をテーマに講演していただく。また12月に中1～高2学年で人権教育をテーマにしたLHRを実施予定である。	28	32	1		86.1
5	情報発信 本校の教育活動の成果を、保護者、小中学生、地域に伝え、特色ある学校として理解してもらうことができたか。	学年通信や保護者説明会などを通し、生徒の様子を発信した。(高3)	継続し、さらに充実させたい。(高3)	32	24	5		86.1
		高校案内パンフレットを一新し好評であった。	パンフレットが多くの人目に留まるような配布先を考えていきたい。					
		公開授業や学校説明会には大勢の参加者があり、情報発信ができた。	学校説明会の更に多くの方に来校をしていただく工夫をしていきたい。					
全体	生徒会 質実剛健の気風を大切に、執行部と各会員が一体となった自主活動のための指導支援ができたか。	役員選挙や生徒会新体制確立などの際、係と連携し、生徒をサポートした。(高2)		37	23	1		89.8
		様々な行事の企画・運営や日々の委員会活動を通し、役員だけでなく多くの生徒が成長した。(高3)						
		ポッポスト(意見箱)や生徒会通信などを活用して、執行部と生徒会役員とが対話をはかることで、鳩祭など各行事が一体感あるものにできた。	今期生徒会の成果と課題を踏まえ、来年度に向けて諸活動や諸行事の内容を精査し、全校生徒を交えた議論を行いたい。					
		各活動において、職員の効果的な支援がみられた。	中高の協力体制や連携のあり方を模索して行きたい。					
	生徒一人ひとりが、生き生きとした活動ができたか。	各行事や日常の委員会活動では、生徒の自主性を促しながら内容を精査し充実させた。	全校生徒が生徒会活動に関心を持ち、参加できる機会を増やしたい。					
校内美化	清掃用具の充実を図ると共に、生徒が自主的に校内美化を進められるように、指導・支援を行うことができたか。	限られた予算の中で使用頻度の高い清掃用具・用品を購入した。	用具の点検をし、計画的補充が必要。	29	24	8		83.6
		生徒のゴミ分別の意識を高められた。	落ち葉等の外掃。					

指標は、A(4点)、B(3点)、C(2点)、D(1点)として最高100点となるように換算しました。

〔換算式〕 $25 \times (4 \times A \text{の数} + 3 \times B \text{の数} + 2 \times C \text{の数} + 1 \times D \text{の数}) \div \text{総数}$

